



# 遣伯使見聞録



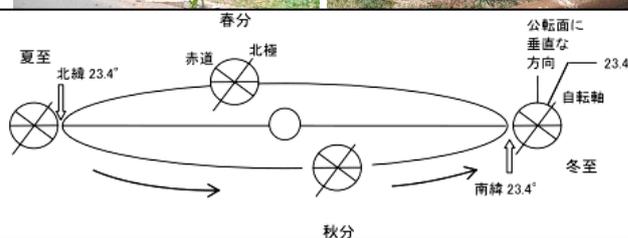
## O que você acha? (どう思いますか?)

右の2枚の写真を見て、どう思いますか・・・よく見てください・・・？  
ヒントは「暑いなあ、でも日本ではないことだなあ」です。

暑い日、車に乗っていてふと気づいて写真を撮りました。木の影が木の真下にできているということです。「太陽がほぼ真上から照らしているから、ここは暑くないかな」と考えました。時間は昼の12時でした。12時の太陽の高さを南中高度と言います。この高度が高い方が気温は上がり、暑くなります。日本は夏至のときで約78度です。もうすぐ夏至をむかえるパラナイの南緯を調べ、計算してみたら、なんとほぼ南中高度が90度、ほぼ真上でした！だから何？って思われるかもしれませんが、理科教員としては予想が当たってちょっとうれいできごとでした。



- ◆北半球：夏至のときの太陽の南中高度（度）  
= 90 - (豊橋の緯度：北緯 34.8) + 23.4 (地軸の傾き)  
= 78.6度
- ◆南半球：夏至のときの太陽の南中高度（度）  
= 90 - [(パラナイ市の緯度：南緯 23.1) - 23.4]  
= 90.3度 【中学3年地学より】



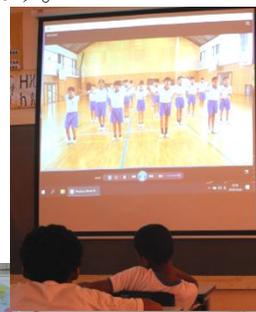
パラナイの学校で授業をしている時もよく「どう思いますか？」と聞くようにしています。こちらでは多くの授業が「これはこうですよ！」と教え込んでいるので、子どもたちはあまり考えようとしません。

## 体育の授業

「体育」というのは、「体を動かす教育」ですから日本独特の言い方のようです。日本の大学では「体育学科」というのを「スポーツ学科」に替えているところもあるそうです。でも、小中学校では「体育」は大事です。そして、体を動かすことで何かを学ぶのは世界中どこでも同じはずです。

幸小学校の6年生に協力してもらいラジオ体操の模範DVDを作って、持ってきました。それを見ながらいっしょにラジオ体操をしました。ブラジルの子たちはすぐにしゃべります。でも、ラジオ体操をしているときは、だまって真剣にまねをしていました。

「自分が！自分が！」という個性の強いのがブラジルの子の特徴です。それはとても良いことです。でも「ときには友達に寄り添い、頼り合うことが大事なんだ」ということを体感させたくて「背中を合わせてスタントアップ」をしました。頼り合って立ち上がったときは大喜びでした。



## 東海地区は外国人が多い！ ～ナッツコラム～

日本から帰ってきた人や日系人に会うとすぐにナッツは「どこに住んでいましたか？」と聞くね。そして、豊橋に近いと「おう、僕は豊橋です！近いですね♥」と親近感をアピールする。というのも、住んでいたのは、静岡県 の浜松市、磐田市、静岡市、沼津市とか、岐阜県の大垣、美濃加茂とか、滋賀県の長浜とか、愛知県は安城市、知立市、豊田市など、実は東海地方ばかりだったんだよ。マリंगाで会ったサッカー元日本代表の三都主アレサンドロさんも静岡市に家があってよく帰るんだって…。東海地方とブラジルは結びつきが強いねえ、ナッツ！（ナッツの腕時計より）

